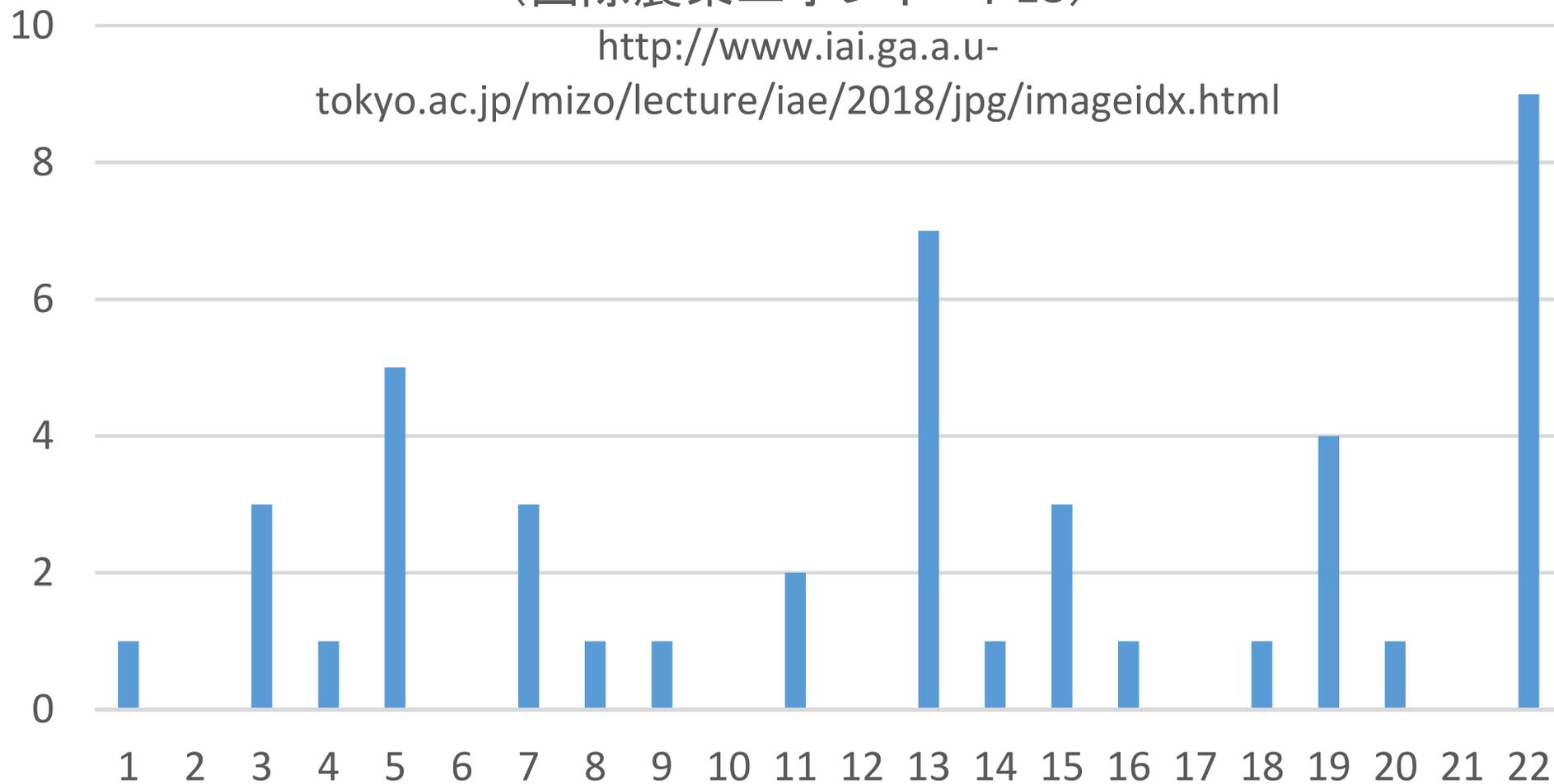


# 「2050年までに実現したい地域の姿」レビュー件数 (国際農業工学レポート18)

<http://www.iai.ga.a.u-tokyo.ac.jp/mizo/lecture/iae/2018/jpg/imageidx.html>



2050年までに実現したい地域の姿

国際農業工学レポート課題分析(2018年A1ターム)

<http://www.iaj.gu.ac.jp/mizo/lecture/iae/2018/jpg/imageidx.html>

選択番号	良い点	アドバイス	備考
1	<p>田んぼや畑を全て室内化するという案は、天候にも左右されずまた獣被害も受けずに済むので、食料の安定供給につながる画期的でいいアイデアだと思いました。また都市の面積より、作物を育てる地方の合計の面積の方がずっと広いので、現在よりも耕地面積がかなり増え、食料の増産に大きく貢献するというメリットもあるでしょう。</p>	<p>福島の信頼回復についてテーマが大きくて具体的にどのように取り組んで将来どうしたいのかというイメージと、題名である技術効率化とどのように関係があるのかがつかみきれなかったので、少し具体化すると良いと思います。</p>	
3	<p>描かれている社会が結構ディストピアな感じがして、個人的には好みです。実現してほしいかといわれればそんなこともない気がします、ポスターなので、振り切った構想であるというのはいいと思いましたが、個人的にはこのポスターは1アイデアとしてよいと思ったのですが、同時に受け入れられにくいものでもありそうと思いました。多くのひとにとって、今の社会からそこまで自動化された社会というのは想像しがたいものだと思います。とはいえ、このような過激な考えは、議論を起こすのでよいものとは考えます。また、主張としてはひたすら人がいなくても成り立つ農業を目指すというという感じで、一貫してよいと思いましたが。人口が都市に集中するならば、もう農業をする人は</p>	<p>わかりにくい表現があると思いました。体言止めだと、回復「してほしい」のか回復「するだろう」なのか、ニュアンスが伝わりにくいと思います。実際どっちなのでしょう。また、管理が大変そうだと思いました。自動運転とかも必要になってきそうだし、機械が壊れたら人間が直さないといけません。そこまでも自動化できれば、相当効率的だと思います</p>	
3	<p>田んぼや畑を全て室内化するという案は、天候にも左右されずまた獣被害も受けずに済むので、食料の安定供給につながる画期的でいいアイデアだと思いました。また都市の面積より、作物を育てる地方の合計の面積の方がずっと広いので、現在よりも耕地面積がかなり増え、食料の増産に大きく貢献するというメリットもあるでしょう。</p>	<p>福島の信頼回復についてテーマが大きくて具体的にどのように取り組んで将来どうしたいのかというイメージと、題名である技術効率化とどのように関係があるのかがつかみきれなかったので、少し具体化すると良いと思います。</p>	
3	<p>技術面で「全て田んぼや室内化(台風、豪雪でも大丈夫)」をするという発想が斬新で興味深く感じた。 徹底的な機械化により必要農業人口自体を減らし、人口減少、高齢化に対策とあるが、この「必要農業人口自体を減らす」という発想も斬新であると感じた。現在の日本において、農業人口の減少・高齢化が農業における課題であるがそれに対して逆転の発想を用いている点がほかにない意見で良いと思った。 この作品は「機械化」で様々な視点を述べていたが、筋が一貫して、かつ斬新な発想が多くとても良い作品だと思った。</p>	<p>現在の日本の財政・経済成長率を考えるとビニールハウス設置をできるほどの予算や補助金は日本にはないのではないかと思います。それとも2050年にはビニールハウスやその他設備も低予算でたてられるほど技術発展も進んでいることを加味しているのか疑問に思った。また「ドローンを飛ばして広い耕地を日中監視」とあるが、レポート全体のつくりとして意見を言うと、この段階でドローンといわれても何に使うのか分からないため、「ドローン」というワードを使用するのは、ロボットによって農業を完全に管理するという説明の後のほうが適していると感じた。 減少した人口をすべて各県の都市に集める、都市以外の土地はロボットが重作業を行う街を作り、動植物の保護区にするという点についてはその土地の「人」の土地への愛着を無視しており、静かな農村地域が好きだからそこに住んでいるという人々のことを考慮すべきだと思った。また題名に「東北」とあるが東北に特化している理由がもう少しあればよかったと思う。</p>	<p>作品3と13とともに機械と中央サーバの連携に関して言及しており、3は「国際的な輸出入状況などから中央政府が考案した政令市令を直接地方都市に伝達しロボット農業地域に指令を送り迅速な対応を行う」とあり14では「中央サーバがアドバイスをして農業従事者に指示を出す」とあった3に関してはどのような情報を流すのかということが触れられてよかったと思う。</p>
4	<p>タイトルで生産者と消費者がつながる農業というふう言っていて、色々な写真と矢印でパッと見たときにポスターの全体像が見えやすい。一言一言が単語レベルで短いので、さらっと気兼ねなく見れるのが良い。交流のところは逆に細かいところまであって、こたわって伝えるところは伝えられる。</p>	<p>写真とか文字の配置がバラバラでそこに見づらさがあった。左側の方の文字は、分量の問題もあるが横幅は統一した方が見易い。右側の写真の方は写真がどれがどのグループかわからなかったのは、グループごとに少し離したり枠で囲ったりして矢印がどのグループに向かっているのかもっと分かりやすくなった方がいい。</p>	
5	<p>農村を含めてではなく、都市の中で全て自給してしまうというアイデアはとても面白いなと感じました。また、食料やエネルギーなどの供給状況など生活に必要な情報が公開され、自給するために何をすべきかの指示が明確に、しかも瞬時に受けられるのは、実際に東京で暮らす人にとっては生活が格段に楽になり便利だろうと思います。実際にこの東京のモデルのように各地域で自給ができると、外国などの遠い地域に頼らなくても済み、経済的、社会的に安定した暮らしが手に入ると思うので是非実現して欲しいです。</p>	<p>食料自給の点から見ると牛や豚などを肥育する牧場や魚類を養殖する養殖場が現在のスライドの中に記載されていませんが、大都市である東京において肉類や魚類の需要がなくなることは考えにくいので、内容に盛り込むと良いと思います。</p>	
5	<p>農村を含めてではなく、都市の中で全て自給してしまうというアイデアはとても面白いなと感じました。また、食料やエネルギーなどの供給状況など生活に必要な情報が公開され、自給するために何をすべきかの指示が明確に、しかも瞬時に受けられるのは、実際に東京で暮らす人にとっては生活が格段に楽になり便利だろうと思います。実際にこの東京のモデルのように各地域で自給ができると、外国などの遠い地域に頼らなくても済み、経済的、社会的に安定した暮らしが手に入ると思うので是非実現して欲しいです。</p>	<p>食料自給の点から見ると牛や豚などを肥育する牧場や魚類を養殖する養殖場が現在のスライドの中に記載されていませんが、大都市である東京において肉類や魚類の需要がなくなることは考えにくいので、内容に盛り込むと良いと思います。</p>	
5	<p>農村で効率的な農業を行う方法を考えている人が多い中、物が溢れている東京で効率的な資源配分を考えるという案が面白いと思った。特に、食べ物などの必要なものを配分してだけでなく、排出される生ゴミの情報や発電した生産可能エネルギーの情報を管理することで、エネルギーや堆肥の売買を行うという案は、環境に優しく持続可能性の高い社会に近づくことができるため、実際に行っても良いのではないかと感じた。理想の農村と言われ、東京は全く頭に浮かんでこなかったが、人口が多い東京でこそ、ここに書いてあるように都市養鶏や都市養蜂を行い、少しでも自給自足して</p>	<p>データベースを介して家庭や飲食店、介護施設、会社等様々な施設とやりとりすると書いてあるが、中央統制を測理、途中の在庫などを管理する機関を設置した方がいいのではないかと考えた。</p>	

5	東京に都市農業を導入するというアイデアが面白いと思った。都市農業で食材等のやり取りを調整してくれる人工知能と、食材を運搬するドローンの存在が挙げられていて、それが今後30年間で進む技術革新の点であろう。	より深く考えるべき点を挙げるとしたら、一つは土をどうするかという点ではないだろうか。屋上菜園をするのであれば、土を大規模に供給する仕組みが必要であるだろうし、土をそこまで深くはれないので農業自体の質が落ちてしまうような印象がある。家庭菜園でも高い生産性あるいは高い質を確保できるような何か技術が考えられたら良いと思った。他には、堆肥についても考える必要があると思う。循環性を意識して堆肥利用を推進しているのだと思うが、生ゴミがすぐさま堆肥になるわけではなく、それなりに臭いもでる特別な処理が必要になると思うので、近隣で堆肥の交換をするのは難しいのではないかと。そうではなくて生ゴミを回収して堆肥生産を行い菜園に分配するビジネスみたいなものができたらいいのではないかとと思うが、化学肥料がある中でどうやって経済性を確保するのかが課題だと思う。食材のやり取りは必ずしも直接ドローンに限定する必要はないのではないかと考えた。	
5	日本の中心都市である東京に自給させるという発想は面白いと感じた。食材の物々交換を通して近隣住民との交流を行うというのも、温かみがあって良い。確かに東京が自給できれば災害や国際市場のリスクに備えた自給システムの完全な構築に大きく資することになるので、国内自給の理想的な形であると思う。	家庭菜園で家族全員分の食材を賄うというのは農業知識の乏しい国民には酷であるし、輸入野菜の購入以上のメリットが何かないと誰も自給しないだろう。また、介護施設での養鶏は多忙な介護職員に行わせるのは厳しいと思われるし、営利的な団体である会社に自給を推進するのも難しいのではと思う。これらの点を踏まえ、自給をすることの労力・リスクに対する具体的なメリットの提示を少しでも添えてみると、より良いポスターになるのではないかと感じた。	
7	・現在の白川町の問題分析がきちんとなされており、その課題に対する解決策を1対1で説明できている ・スキージャンプ台があることや豊かな自然があるといった長所を生かす形の解決策をとっていることで、その地域への環境負担や住民負担が低い	直通バスを旭川駅から通す、という策が述べられているが、北海道の地理に詳しくない人から見れば距離感がわからないため、地図や所要時間もこのレポートに載せられるとより新設で良い	
7	課題一解決策の流れを、図形を用いて見やすく書いているのがよいと思いました。図形には項目、その説明が簡単にまとめられていて見やすいです。また、3つに絞られていて、見やすいと思いました。総じて、見やすいポスターだと思いました。内容としては、長所を活かそうというもので、今あるものから考えていて、それはそれでよいと思いました。	白川町がどこにあるか知らないひと多いと思うので、地図があるとわかりやすくなると思いました。 また、AIを活用するとは具体的にどのようなことなのか踏み込むとよいと思います。現在の農業も、水路の管理などの場面でインターネットの活用が結構されています。そして、長所が少し弱いかないと思いました。豊かな自然があるところは日本にはとても多くあると思います。その中で、なぜ白川町なのかという点では弱いと思います。つまり、日本のどの地域にも通じそうなポスターということです。スキージャンプ台がある町はなかなかないと思うので、それをもっとアピールすればよりメッセージ性が強まるとリアリティがあるのは良いことですが、2050年ということでもう少し飛躍したアイデアや大きく見出しにできるような大々的なアイデアがあると、ポスターとしての質はよりよくなると思います。さらに、AIを用いた農業というところも、もう少し具体性を帯びて、何をAIで管理するのが明確になると良いと思います。	
7	現在の問題を具体的にどう改善していくかというのが現実的かつ伝わりやすく良かったと思います。最終的な目標として、サービス業の雇用拡大、若年人口の増加、AIを使った農業の発展などを定めたところが、私たちからも想像しやすくてリアリティがありました。スキージャンプ台があるというアピールポイントも、うまく利用できるビジョンを示唆できていてとても良いと思います。		
8	カンボジアにおける現状と30年で何がかわるかの対比がわかりやすい『クメール文明の復活』というキャッチフレーズがわかりやすく、印象的である。	具体的に地雷撤去などの目標をどのように達成するか、という道筋を示して欲しい。海水から真水への変換技術はすでに実用化されている、むしろトンレサップ湖の水を有効活用する方が現実的なのではないだろうかと思う。	
9	良い点は2つある。簡潔さの観点では、画像がわかりやすく並べられており、伝えようとする概念のイメージがしやすい。またアイデアの面でも、「群馬県みなかみ町」のように具体例が出ていて良いと思う。6時産業化が進展するという考えは、現状これだけ「6時産業化」という言葉がもてはやされているのを鑑みると納得できる。昨今よく言われる「持続可能」な農業には、現状のシステムをより良くすると同時に、次世代の育成も必須である。その意味で子供の教育が今後より一層重要になってくるというのは納得する。	改善できる点は、アイデアに理解しやすさはあっても、斬新さはない点である。スライドで述べられているようなことは5年または10年以内には達成しそうだ。今2018年の30年前といえば1988年。まだ冷戦が続いていたような時代であり、平成生まれの私には想像だにできない。今から30年後も同様に大きな変化が起きているかもしれない。例えば、2050年には韓国が統一され、アジア圏により大きな地殻変動が起きるなどである。つまり私たちが常識だと思っていることは、もう常識ではなくなっている可能性がある。その点スライドで述べられていることは常識的であるがゆえに、真ではない	
11	ただ、農業ロボットを導入するというよくあるアイデアにとどまるだけでなく、虫がついている葉だけに農薬を撒くといった新たな独自性のあるアイデアまで述べられている点が良い	・ほかに農村人口不足、高齢化に悩む農村があるなか、なぜ北海道士別市を選んだのか、土別市の現状をより詳しく説明できると、農業ロボットの導入必要性により説得力が持てると思う ・農薬を撒く絶対量が少なくなるという指摘がせっかくできていたので、AI搭載農業ロボットの導入による効果について、効率的な農業ができることだけでなく、農薬の少なさを売りとしたブランディング戦略に結び付けられるなど、もう少し良い点を挙げられると良かった	
11	写真がのどかな田舎の風景と遠隔操作の農業機械であることによって、最初に見たときに落差というIT技術を押しているんだというのが視覚的に伝わってきた。ちょっとした写真で主題がなんとなく伝わるのは大事なポイント。説明部分の内容も少なめで読もうかなと思える量だし、伝えたいところを伝えられているからちょうどいいと思う。	タイトルにキャッチーさが少ない。北海道士別市の農村と言われてもそれで？となってしまふ。一番のキーワードをタイトルに入れ込むと写真と相まって分かりやすく伝わりと思う。説明のところのも文章チックになっているので、それぞれ小見出しにしてその下にちょっとずつ説明の方が見やすく分かりやすい。	
13	ポスターとしてのかっこよさにすぐ価値があると思う。シンプルなイラストに簡単な説明を付け加えることによって、視覚的に目を惹くデザインだと思ふ。また、「AI」という現在世界中の先進国で広まりつつある技術が、発展途上国にまで広まって有効に活用されている、というのがこの作品のアイデアであるが、現在発展しつつあるものを踏まえて、2050年の農業のありうる姿を適切に考えられていると思う。	ポスターがシンプルなのは良いが、もう少し具体的にAIをどのように波及させ、活用されていくのか、ということまでポスターに盛り込めると、より効果的だと思う。「Best Solution」という記述があるが、このポスターでは、AIが、ケニアの「何」を「どう」解決するのか、ということがいまい伝わってこない。	

13	・イラストにインパクトがある点	・具体策が全くなく実現性に乏しい ・確かに今はAIというのがホットな話題であり最先端感があるが、シンギュラリティーが起こった後の世界ではAIが人間に代わって様々なことをするのは至極当たり前のことであり、斬新さに欠けている ・ケニアでのコーヒー豆の生産は先進国側がとて安いで賃金でやらせているみたいな話を聞いたことがあり、2050年に果たしてケニアで作られているのかという単純な疑問	
13	AIという人間の主観的な側面に判断されず、客観的に物事を分析できるという点は良いと思う。 また、イラストが見やすく、すぐにこれが何を表しているか、ということが伝わる。	“Best Solution”とあるが、具体的に何なのか、示してほしい。 都市化とCoffee Farmersがどのような関係性でそこにAIがどう介入するかを示して欲しい。	
13	上でコメントした19.jpgに対して面白いなと思ったのがこの作品である。 イラストなど、ポスターとしての出来栄えははっきり言ってしまおうとイマイチではあるが、発想が面白いと思った。「AIに頼む」ということ自体はそこまで斬新なことではないが、解決策としてポスターに書かれているのは「Best Solution」のみである。この抽象性が、「未来(2050年)の」万能性(可能性)について一番大規模であるように感じた。	少しメタ的な視点になるが、このポスターの作者はなぜケニアを指定したのか気になった(このアイデアだけを見るとケニアであることの必然性を感じることができなかった)。	今回の作品について、①ポスターの構成②発想(突拍子のなさ)の二点において印象に残ったものについてコメントした(つまり、この二つを取り入れることでもっと良いポスターを作ることができると思う)。
13	アフリカの農業現場でのAI技術の浸透は今後可能性があるのではないかと思った。	アフリカのケニアのコーヒー農園のどんな課題がAIで解決されるのかを具体的に説明してくれたらもう、もっと良くなると思った。生産過程でのAI技術利用も良いが、特にアフリカのようにポストハーベストの分野が未発達な地域では、そちらの方にAIを使っても良いのではないかと考えた。例えばAIを使うことで、小規模農家が市場の情報を得て所得の向上につながるかと、流通分野での効率化が進んでフードロスの削減につながるなどできないだろうか。	
13	このポスターの良い点はイラストのレイアウトが簡潔で見やすいということがあげられると思う。ポスターで一番重要なことは、私は見やすさであると考えているため英語で書いてあるということを考慮しなければ全ポスターの中で一番読まなくても分かる内容であったことはよい点であったと思う。	このポスターは、おそらく貼る場所に日本を想定していると思うが英語しかないため万人受けしないと思う。そのため日本語でタイトル付けして、下に小さく英語でタイトルを付けたほうがかっこいいと思う。また、best solutionでこうなるというように写真が付け加えられているが、そもそも solutionとは何か具体的に示してほしいと思うし、写真は現実存在しているものであるもので2050年を想定するポスターとしては不適当表記されている「Best Solution」というのが何なのか具体的に記述してほしい。配色として近くで見られるとこしか想定していないと感じた。遠目で見るとわかりづらいように感じる。そのためには左側に配置されている脳(?)のイメージ図などを濃いめの色に変更する、背景として使っているコーヒーマメの写真の透明度を上げる、または黒いものの写真ではなく明るい色の写真を利用するなどの対応が考えられる。あとBEST Solutionの後にある写真は現在の写真であるため解決策の内容の記述のなさを補うためのイメージが得られない。解決策として文字での具体的な記述、もしくは理想のイメージ図を作成して貼ったほうが良かったと思う。あと、全体的に色彩が単調である。これも背景の写真の選択の時点で明るくかつ文字の邪魔にならないものを	
13	無駄を極限まで省いた大胆な構図。AIが、という記述、具体的な場所の設定。それでいてふわっとまとめているポスター。見やすい。記述がすべて英語で行われているというのも、日本語にとらわれていたほかのポスターと違って発想の飛躍が良い。	スプロール減少を解消すると書いてあるがどのように行うのかも少し具体的に記入するべきではないかと考えた。各種農業用センサーについてはより具体的に何のセンサーがどう作用して働くのかを具体的に知りたいと思った。	作品3と13ともに機械と中央サーバの連携に関して言及しており、3は「国際的な輸出入状況などから中央政府が考案した政令市令を直接地方都市に伝達しロボット農業地域に指令を送り迅速な対応を行う」とあり14では「中央サーバがアドバイスをして農業従事者に指示を出す」とあった3に関してはどのような情報を流すのかということが触れられていてよ
14	千葉県におけるドローンによる精密農業がテーマであり、今話題の「ドローン」に焦点を当てている点がおもしろいと思った。	大企業が農業に参入するというidealには基本的には良いと思うが、デメリットもあるのでそれに対する何らかの言及が必要ではないかと考える。農家自身の利益は減っていくことが見込まれるということである。また賃金の問題など多くの問題が発生する可能性もある。	
15	農業のブランドイメージ向上に対して大きな貢献ができると思われる。大企業が参入しさらにその企業が社会に対してどんどんアピールしていけば、消費者にとっては、一種の驚きのようなものも生まれ、農業関連商品の認知率が上がり、農業に対するイメージ向上につながるのではないかと考える。	どのような企業に参入してもらいたいのか、どのような企業の参入が効果的かを考えたい。農業のマニュアル化は大企業の参入によってどのように進められるのかが不明だった。企業が参入するメリットは何か分からない。JAの下部組織のような図示がされているが、そのような体制をとるのはなぜか。そのあたりまで突き詰めていけばより良いアイデアに仕上がると思う。	
15	日本の農業を包括的に良くするための施策だと思った。企業のネームバリューを生かして若者の関心を集めるというアイデアは考えたことがなく、確かに効果はありそうだと思う。機械化+農業機械の支給は確かに必要だと感じた。	東京での大企業参入という点において、まず広大な敷地の確保というのが問題となってくるのではないかと。また、生産量(業績)に合わせた公平な「昇進」ならば良いと思うが、生産量に合わせた公平な「給与」となると悪天候などの自然的要因により給与が低下するリスクから、労働対価により給与を得ると雇用契約の原則から外れてしまうため、雇用契約を締結する意味が没却する危険性も出てくるのではないかと感じた。以上の点から、社員としての農業従事者の立場をもう少し明確にすると、より良いポスターになるのではないかと感じた。	
15	農業従事者を社員に準ずる立場に置くことによって農業従事者のリスクやコストを減らし、単純単純労働化することで人手不足の改善や若者の農業離れの抑止を図るというのは合理的で良いアイデアと感じた。農業機械の支給は魅力的で、農業参加への敷居が低くなることにもつながるので理想的であると思う。	拠点を經由する経済的コストとのバランスが疑問。関税はどう考えるか?技術が(一か所(一か国)に集中するのではないかと。また他国の雇用を奪うことにもつながりかねないと思った。大消費地に対する供給にはメリットがあるが、マイノリティに対してはむしろ食品が行き届くのが遅れたりするのではないかと。もう少し細かく流通システムを議論できればもっと面白くなると思う。	
16	国を跨いだハブ・スポーク方式は面白いと思った。加工場の効率化、環境負荷の低減、加工を一か所で管理することによる品質と供給の安定化など、多くのメリットがあると感じた。	九頭竜川のオリジナリティとは何なのかについて知りたい。多くの地域で10・30年以内にはICTの導入が行われてしまっているため、斬新なアイデアが九頭竜川のオリジナリティを踏まえて出てくれればより良いと思う。	
16	国を跨いだハブ・スポーク方式は面白いと思った。加工場の効率化、環境負荷の低減、加工を一か所で管理することによる品質と供給の安定化など、多くのメリットがあると感じた。	拠点を經由する経済的コストとのバランスが疑問。関税はどう考えるか?技術が(一か所(一か国)に集中するのではないかと。また他国の雇用を奪うことにもつながりかねないと思った。大消費地に対する供給にはメリットがあるが、マイノリティに対してはむしろ食品が行き届くのが遅れたりするのではないかと。もう少し細かく流通システムを議論できればもっと面白くなると思う。	
18	画像が分かりやすく、伝えたいこととリンクしている。文字もハイライトされていて、視覚的に理解しやすい。	九頭竜川のオリジナリティとは何なのかについて知りたい。多くの地域で10・30年以内にはICTの導入が行われてしまっているため、斬新なアイデアが九頭竜川のオリジナリティを踏まえて出てくれればより良いと思う。	

19	<p>若年層自治区を制定という発想がおもしろいと思った。議員の年齢を39歳以下に定めるというのは、新しいアイデアがたくさん出てくるし、いろんなことに挑戦する地域になりそうでおもしろいと思う。</p>	<p>若年層自治区を制定という発想がおもしろいと思ったが、一部市町村を合併して作るというのは難しいように思う。合併するのは、おそらくすでに高齢化・過疎化が進んでいる地域だと思うが、そういった地域では60歳以上が大半を占めるのではないだろうか。今まで住んでいてその土地やコミュニティに愛着がある人を無理やり移動させるわけにはいかないと。全く人のいない新しい地域に自治区を作るか、あるいは、住民を59歳以下と定めるのではなく、新規移住者を59歳以下の若い人に限定する方が良いと思う。</p> <p>住民を59歳以下と定めているが、家族と一緒に暮らしている世帯で一人だけ60歳を超えてしまった場合どうなるかというのが気になった。その自治区から出ていかなければいけないのか、家族がいる場合は例外なのか。また、一人で住んでいて60歳になってしまった場合にも、例えばその場所が気に入っていたり、近所の人とのコミュニティがその人にとって重要だったりすると、自治区から出て行くということは難しいように思う。</p>	
19	<p>個人的には、すべての作品の中でこれが一番目を引くものであった。ポスターにおいて「目を引く」というのは一番大切なことの一つであるから、これについてコメントをしたいと思う。</p> <p>一つ目は、「余白の埋め方」であると思う。他の作品でも、背景を工夫したり、全体の構成を工夫したりしているものは見られ。面白いものもあったが、この作品がそれらと大きく違うのは、背景(余白)を埋める際に「文字」も併用していることだろう。のちに触れるが、土佐藩の有名な武士である坂本龍馬の口調で「高知を変えろぜよ！」と大きく書かれていたり、「革命」と背景になっていたりするのは印象的であるように感じた。</p> <p>二つ目は、キャラクターの利用である。他の作品に登場するイラストは、キャラクター性の無いものだったが、それに対してこの作品では「坂本龍馬」という誰もが知っているキャラクターを用いることで、見る人に親近感を与えるのと、印象に残るようにしているのは魅せ方として上手であるように思う。また、他にすごい(面白い)と思うのは二点あり、この作品で描かれている坂本龍馬が自作(?)であり、その上このポスターにはどこにも「坂本龍馬」という文字は現れていないのである。自作(?)するイラストのクオリティと、セリフによる見せ方のみで「坂本龍馬」であるということを確認させているのは、参考にしたい見せ方だと思った。</p> <p>三つ目は、上記以外のイラストの使い方だ。インパクトのある数字、セリフによって目にこのポスターの良い点は、とにかくアイデアが斬新であるということだ。実現できるかはおいといて若年層自治区や坂本龍馬基金といった具体的な提案を掲げている2050年に多少夢が膨らんだ。また、このポスターは全部のポスターの中でインパクトの強さでは一番であった。歩いているときにあのポスターが目に入ると一度止まって読んでみたくなる、そういうポスターであると思うし、ポスターとして重要な要素を満たしていると言どのアイデアよりも具体性があり、面白い。他のアイデアがAIなどの科学技術に着目する中で、人口の割合や制度に着目しており非常に目を引いた。</p>	<p>一つ目は、は上に書いたことと矛盾する気もするが、文字が多すぎる、という点だ。伝えたいことはもう少しあるように思うが、完全に背景として馴染んでしまっているため、多くの人はここまで読まないだろう。文字も背景にする、というの面白いが、この中の2割程度は伝わるように別の書き方にしてもいいように思う。</p> <p>二つ目は、発想力という点である。2050年なのだから、もっと突拍子のないアイデアがあってもいいように思う。ただ、近未来という機械化に目が行きそうところで、「人」に目が向いていることは着眼点として面白いと思う。そこで、解決策として例えば「ロボットが農作業を手伝ってくれる」、「AIによる全自動農作業」や、あるいは「勝手に育て勝手に収穫される(植物、機械両方の発展)」などもアイデアとしては考えられたように思う。</p>	<p>今回の作品について、①ポスターの構成②発想(突拍子のなさ)の二点において印象に残ったものについてコメントした(つまり、この二つを取り入れることでもっと良いポスターを作ることができると思う)。</p>
19	<p>このポスターをもっとよくするためには、せつかく具体的な案まで考えているのに、最後のところが見切れているし、イラストのインパクトが強すぎて提案の主張が弱くなっていることを改善しなくてはならないと思う。そのためには、本来のポスターとしての役目を考え直し箇条書きなどにして提案を見やすくすることができればいいと思う。</p>		
19		<p>着目点は面白いが(というより他の案がありきたりすぎる)、2030年に制定されるという若者を増やすという法律は、なぜ2030年なのか。今じゃだめなのか。また、なぜ高知なのか。もっと高知でそれをやる理由等が分かるように書けばよいと思う。</p>	
20	<p>農家の立場を考えた案であり、現在存在している課題や問題点に着目して記述している点。</p>	<p>もう少し趣旨に合った写真や画像が探せばありそう。無駄を省き省人化の方向へ考えているが、それだけでは失業者が生まれてしまうため、生まれるであろう新たな職について言及するのはどうだろうか。</p>	
22	<p>「バイト」という、大学生なら誰もが関わり得ることを、農業に結びつけているところがまずは大学生にも伝わりやすい内容であり、さらにリアモーターカーなど2050年に台頭しているであろう技術についても書かれていて、適切に2050年の農業の姿と理想図を描いていると感じた。</p>	<p>文章が多く、視覚的にその理想図を捉えにくいことが、もったいないと思った。</p>	
22	<p>すぐポスターらしいデザインであるので、その内容に対して目を引くことができる。さらにポスター内で主張したいことが明確であり、その内容も細かく書いてあるので、多くの人々に伝わりやすい構成であるのではないだろうか。ideaに関しては、今現在研究の進んでいる技術の有効利用を考えている点である。これからはAI中心の時代になってくることが予想されるのでそれを研究するだけでなく、自分の手で使うことができるスキルも必要になってくるのではないか。2050年には多くの学生がそうしたスキルを身につけていることが予想されるので、このidea自体は先を見据えた的確なものなのではないか。</p>	<p>大学生を農業バイトに来させるインセンティブについて言及があるとなおさら良いのではないだろうか。バイトという概念だとやはりお金に苦しむ大学生なので、報酬をあげたりだと様々な工夫が必要だろうと考える。合理的な手段や理由が示せれば、多くの大学生バイトを獲得できるだろう。</p>	
22	<ul style="list-style-type: none"> <li>イラストなども含めて全体の配置がよく見た人に興味を持ってもらえるようなポスターに仕上がっている点</li> <li>リアモーターカーという新たな交通手段を利用することで距離的な制約をなくし、新たな案でありながらも実現可能であると思える点</li> <li>学生が参加することで高齢化にも歯止めがかけられる点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>せつかく若者がやるんだから農業をもっとビジネスとして捉えてみたいなのの方がいい</li> <li>そのまま就農につながるような具体策を示した方がいい</li> <li>バイトとかじゃなくてインターン的なもの(単位認定されるみたいな)の方がより若者に興味を持ってもらえるような気がする</li> </ul>	

22	昔、農業インターンを個人的に探したことがあったが、東京の近くでできるものがないなと思って諦めた。農業バイトが流行したらすごくおもしろいだろうなと思った。いろんな技術が学べるというのも、リニアモーターカーで地方の農場に楽に行けるというアイデアも良いと思う。農業以外にも、他の第1次産業でできたらおもしろいと思った。	農業は人が生きていくうえで切り離せない重要なものであるのに、他の産業に比べて軽視されていたり、農学部以外の学生や都会に住む学生は触れる機会が少なかったりする。農業の現場をもっとたくさんの人に知ってもらって、興味を持ってもらえれば、後継者不足が解消したり、消費者や販売側の意識が変わればフードロス減少したり、様々な問題解決の糸口になると思う。ポスターにも、農業バイトが流行した先の社会の青写真や将来像が描かれていると素敵だと思う。	
22	農における人手不足、高齢化といった大きな問題を解決する斬新なアイデアだと思った。農業が人手不足に陥っている背景として、若者が農業に魅力を感じず都市部に流れてきているといった現実があると思うが、農作業でICTの仕組みを学べたり、リニアモーターカーで移動できたり、若者の興味をそそるような内容がたくさんあり、実際に行ったら人が集まるのではないかと思った。	人工知能を使うことで経験のない学生だけで全ての行程を行うことができる、というのも興味深いとは思ったが、せっかく田舎に行って学ぶのであれば、現場で長い間農業に従事しているお年寄りの方々と触れ合い、農業での悩みや効率の悪さなどについて話を伺い、改善策を考え将来に役立てていくことも必要なのではないだろうか。またもう一つ改善点としては、バイトというのは週に何回か行ったり、短期間行ったりするものであり、農業というのは一年中間与することが必要なものだ。そのギャップを埋めるための遠隔管理システムが何か必要だと思った。	
22	良い点は2つ挙げられる。1つは、イメージキャラクターの女性のイラストの完成度が高いことである。もう1点は交通インフラが整備され、農村と都市の移動が楽になるという予想は今後の科学技術の発展への期待も含め、正しいように思う。	改善できる点は2050年時の日本の人口分布を推測していない点である。少子高齢化が進めば2050年時の日本の大学生は今ほどいない可能性がある。また人口が減り、資本の老朽化が進んだ地方には人が住まず、学生の受け皿がない可能性がある。インフラの発達がストロー効果によって、地方の活力を奪い、都市への集中を招くという皮肉な結果を生む可能性も大きい。	
22	他のアイデアでは「若者」という層に注目していますがココでは「大学生」塗装を限定しておりイメージがしやすかった。またバイトという観点も面白く正に2050年にリニアモーターカーが実現しているからこそ、実現できる案だといえる。また農業バイトで農業以外にICTも学べるというのも魅力的。	経験のない学生が経営をできるようになると書かれているが、いささか非現実的なように思える。もはやそれはバイトを逸脱しているのは、責任の所在などもっと詰めれば現実味が増すだろう。	
22	大学生の立場でアイデアを考え、今の生活からどうやって農業従事者の高齢化を止めるか、どうやって後継ぎを育てるかを表しているところだと思います。私たちからも想像できるけど、そういった社会になるまでは長い時間がかかることだと思うので2050年という約30年後の設定にもうまくマッチしていると思います。さらに、リニアモーターカーやICTの導入など、近未来的に発展するであろう事柄をうまく取り入れていて、より現実的で想像しやすい未来の農業のかたちを表せているのではないかと思います。とくに農村地域というのは主に都心部から離れた場所にあるので、その移動における問題をリニアモーターカーというアイデアで解決をする点はすごく感心しました。	さらによくするためのアイデアとして、学生バイトとしてだけでなく、そこから農業に本格的に取り組み始めたり、社会人などでも農業に参加できたりというような、少し焦点を広げた情報もどこかに一部取り入れられると良いかと思いました。	
22	全体的に緑色を前面に押し出していて視覚的に柔らかいイメージを与え、見やすい。紙の縦向きが大きさを存分に生かした配置。人物として女性を配置しているのも紙面にやわらかいイメージを持たせる。大事なものが何かパッと目に入ってきやすい。テーマが大きく書かれているため中に何が書いてあるのかある程度予測をしながら読み進めることができる。中の黒文字を際立たせる効果もある。将来の農業についての具体的な記述があることで作者の農業に関する深い関心がうかがえる。それによって実現可能性が高そうに感じられる。課題の内容からの発想の転換が素晴らしい。	人物が大きすぎて、一見遠目で見た際に何のポスターなのか一見してわかりづらい。紙面に凹凸感がないのも原因である。つまり文字以外の面があまりに冗長である。そのためにはせっかく2050年という設定があるので、また横にICT等の設定があるのでそれら機械類、スマホなどの角のある絵を追加できればのべりとした感じが軽減されると思う。	